

令和7年度  
授業要綱  
(全文)

専門学校 藤リハビリテーション学院 理学療法学科



目 次

I. 基礎科目	.....	
1. 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解		
1) 心理学	.....	2
2) 業務運営管理学	.....	3
3) 社会の理解	.....	4
4) 社会福祉概論	.....	5
5) 物理学	.....	6
6) 統計学	.....	7
7) 保健体育実技	.....	8
8) 英語	.....	9
II. 専門基礎科目	.....	
1. 人体の構造と機能及び心身の発達		
1) 解剖学 I	.....	12
2) 解剖学 II	.....	13
3) 組織学	.....	14
4) 解剖学実習	.....	15
5) 生理学	.....	16
6) 生化学 I	.....	17
7) 生化学 II	.....	18
8) 生理学実習	.....	19
9) 運動学 I	.....	20
10) 運動学 II	.....	21
11) 人間発達学	.....	22

2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

1) 病理学概論	23
2) 臨床心理学	24
3) 医療学概論	25
4) 一般臨床医学	26
5) 内科学 I	27
6) 内科学 II	28
7) 整形外科学 I	29
8) 整形外科学 II	30
9) 神経内科学 I	31
10) 神経内科学 II	32
11) 精神医学	33
12) 小児科学	34
13) 老年医学	35
14) 救急医学・蘇生法	36

3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

1) リハビリテーション概論 I	37
2) リハビリテーション概論 II	38
3) リハビリテーション医学	39

III. 専門科目

1. 基礎理学療法学

1) 理学療法概論 I	42
2) 理学療法概論 II	43
3) 理学療法概論 III	44

4) 卒業研究	・ ・ ・ ・ ・	45
2. 理学療法管理学		
1) 理学療法管理学 I	・ ・ ・ ・ ・	46
2) 理学療法管理学 II	・ ・ ・ ・ ・	47
3. 理学療法評価学		
1) 臨床運動学	・ ・ ・ ・ ・	48
2) 理学療法評価法 I	・ ・ ・ ・ ・	49
3) 理学療法評価法 II	・ ・ ・ ・ ・	50
4. 理学療法治療学		
1) 運動療法 I 総論	・ ・ ・ ・ ・	51
2) 運動療法 II 整形外科疾患	・ ・ ・ ・ ・	52
3) 運動療法 III 脊髄損傷	・ ・ ・ ・ ・	53
4) 運動療法 IV 小児疾患	・ ・ ・ ・ ・	54
5) 運動療法 V 呼吸器疾患	・ ・ ・ ・ ・	55
6) 運動療法 VI 循環器疾患	・ ・ ・ ・ ・	56
7) 運動療法 VII 中枢神経疾患	・ ・ ・ ・ ・	57
8) 運動療法 VIII 神経筋疾患	・ ・ ・ ・ ・	58
9) 物理療法 I	・ ・ ・ ・ ・	59
10) 物理療法 II	・ ・ ・ ・ ・	60
11) 理学療法技術論 I	・ ・ ・ ・ ・	61
12) 理学療法技術論 II	・ ・ ・ ・ ・	62
13) 理学療法技術論 III	・ ・ ・ ・ ・	63
14) 日常生活動作 I	・ ・ ・ ・ ・	64

15) 日常生活動作Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	65
16) 義肢学	・ ・ ・ ・ ・	66
17) 装具学	・ ・ ・ ・ ・	67
18) 臨床技術	・ ・ ・ ・ ・	68
5. 地域理学療法学		
1) 生活環境論	・ ・ ・ ・ ・	69
2) 地域リハビリテーション	・ ・ ・ ・ ・	70
3) リハビリテーション機器	・ ・ ・ ・ ・	71
6. 臨床実習		
1) 臨床実習Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	72
2) 臨床実習Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	73
3) 臨床実習Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	74
4) 地域実習	・ ・ ・ ・ ・	75
IV. 選択必須科目 ・ ・ ・ ・ ・		
1) PNFⅠ	・ ・ ・ ・ ・	78
2) PNFⅡ	・ ・ ・ ・ ・	79
3) 特殊理学療法	・ ・ ・ ・ ・	80
4) 文献抄読	・ ・ ・ ・ ・	81
5) 総合理学療法Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	82
6) 総合理学療法Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	83

※ カリキュラム表

# I. 基礎科目

---

1. 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解

授業科目	心理学	単 位	3 単位 (45 時間)	
開講時期	1 年次 通年(全 12 回 : 前期 4 回, 後期 8 回)			
担当講師	前田 憲一			
授業目標 及び 到達目標	心理学全般について理解する。			
授 業 内 容		章	講義内容・タイトル	実習内容
	1	序章	私たちはなぜ心理学を学ぶのか	実習 1 : エゴグラム 漫画でアイズブレイク
	2	1 章	学習・行動	実習 2 : 鏡映描写の実験
	3	2 章	動機・欲求	実習 3 : 要求水準の実験
	4	3 章	感覚・知覚・認知	様々な錯視図形
	5	4 章	記憶	実習 4 : HDS-R
	6	5 章	人格・性格・アセスメント(1)	実習 5 : 内田クレペリン検査
	7	6 章	人格・性格・アセスメント(2)	実習 6 : UPI
	8	7 章	生涯発達心理学(1)	モラトリアム診断テスト
	9	9 章	生涯発達心理学(2)	実習 7 : FAB
	10	10 章	さまざまな発達の形	試験範囲発表
	11	11 章	心理療法の理論と実践	実習 8 : MMSE
	12	終章	DVD 学習会	実習 9 : ストレス耐性チェック
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)			
テキスト	編者 : 青木 智子『医療と健康のための心理学』			
備 考				

授業科目	業務運営管理学	単 位	2 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	國井 佳代子		
授業目標 及び 到達目標	臨床の現場で役立つマネジメントについて調べ、理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人情報の管理と対象者の権利</li> <li>2. 理学療法士としての常識・マナー・態度</li> <li>3. リスク管理</li> <li>4. 臨床実習における管理</li> <li>5. 理学療法士に必要な知識・技術</li> <li>6. 理学療法・理学療法士とは</li> <li>7. 理学療法の対象となる疾患の病態像・経過・治療法と評価</li> </ol>		
評価方法	レポート (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	編者：細田多穂『理学療法士 プロフェッショナル・ガイド』		

授業科目	社会の理解	単 位	2 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 前期		
担当講師	松下 剛		
授業目標 及び 到達目標	<p>社会の一員として必要とされる法制度の知識、およびモラルやマナーの習得、さらに医療従事者としての倫理観や人の尊厳、自立やノーマライゼーションについて学び、自身が目指す理学療法士像の基礎を固めるものとする。</p> <p>また専門職として、患者や利用者と良好な関係を構築するため、そのかかわり方やコミュニケーションの取り方を理論的に学び、それを技術として習得する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会とは</li> <li>2. 人間関係論</li> <li>3. コミュニケーション論</li> <li>4. ノーマライゼーション</li> <li>5. 人の尊厳と倫理</li> <li>6. 自立って何だろう</li> <li>7. 社会保障関連の法と制度</li> <li>8. 私はどのような理学療法士になりたいのか</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	社会福祉概論	単 位	2 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	松下 剛		
授業目標 及び 到達目標	社会福祉の歴史と成り立ちをたどり、理念や価値が社会の変動と相まって発展し、制度として成立してきたことを学習しつつ、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。またソーシャルワーク（対人援助技術）や超高齢社会についても、グループディスカッションを通して学習し、理解を深める。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉</li> <li>2. 社会福祉のあゆみ</li> <li>3. 社会福祉ニーズと把握方法</li> <li>4. 社会福祉サービスの概観</li> <li>5. 社会福祉サービスの供給方法</li> <li>6. 地域福祉の概観</li> <li>7. 社会福祉従事者と専門職倫理</li> <li>8. ソーシャルワークの実践</li> <li>9. 社会福祉の法としくみ</li> <li>10. 社会保障および関連制度</li> <li>11. 近年の社会福祉施策の動向</li> <li>12. 介護施設での視察・交流体験</li> <li>13. 超高齢社会の展望と課題</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100 点満点中 60 点以上合格）		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	物理学	単 位	3 単位 (45 時間)
開講時期	1 年次 前期		
担当講師	鈴木 敏彦		
授業目標 及び 到達目標	物理学の基礎的な事項を学習することにより、物理的法則に立脚した思考方法を理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質点の力学</li> <li>2. 質点系の力学</li> <li>3. 流体</li> <li>4. 静電場</li> <li>5. 定常電流</li> <li>6. 電流の磁場作用</li> <li>7. 電磁誘導</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：原康夫『物理学入門 第3版 Web 動画付』		
備 考			

授業科目	統計学	単 位	3 単位 (45 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	鈴木 敏彦		
授業目標 及び 到達目標	保健・医療関係で必要とされる確率統計の基礎と、実用的側面を重視した応用方法を理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の整理・・・ (1 変数の場合)</li> <li>2. 資料の整理・・・ (2 変数の場合)</li> <li>3. 確率と分布</li> <li>4. 母集団と標本</li> <li>5. 検定</li> <li>6. 推定</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：階堂武郎『医系の統計入門 第2版』		
備 考			

授業科目	保健体育実技	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	藤井 颯 山岡 郁子 内山田 悟朗 國井 佳代子 中邑 まりこ 齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	<p>本授業では多種多様なスポーツを通じて、体力保持増進を図るだけでなく、健康に留意する実践力、さらにはチームという集団の中で協調性や責任感を育み、理学療法士として人と関わる上で重要な社会性の向上を図ることを目的とする。</p> <p>そのために、以下の4つを体験、体得することが目標となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツの文化と特性を知り、スポーツの楽しさを知る。</li> <li>2. 身体活動による体の変化への気づき</li> <li>3. 運動に関する自己身体能力や社会性の評価法</li> <li>4. 集団行動における個人の安全に対する配慮</li> </ol>		
授 業 内 容	<p>1 回目： } 自己の身体能力を測る (体力測定)</p> <p>2 回目： }</p> <p>3 回目：スポーツ参加の心得と軽スポーツの実践</p> <p>4 回目以降： スポーツの実践</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①スポーツの歴史と特徴 (ルールや用具)、安全の配慮の仕方を学ぶ</li> <li>②基本練習 — 競技 — 評価</li> <li>③競技を様々な人が楽しめるものに工夫する</li> </ol>		
評価方法	実技試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講義時に指示		
備 考			

授業科目	英語	単 位	2 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 前期		
担当講師	垣内 淑子		
授業目標 および 到達目標	英語の発音の基礎を学び、音を聞き取り区別して発音できるようにする。 英文の基本構造を理解し、英文内容を前から順に読み取る練習をする。 リハビリテーションの基礎英語、英単語と運動療法の基本指示、を学ぶ。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Self-introduction / Orientation / Entry test Four major fields of rehabilitation / Professionals p.14~p.15 “Definition of Rehabilitation” / English vowel sounds</li> <li>2. English sentence patterns I / “What is Health” p.2~p.3</li> <li>3. Preposition / English vowel sounds “The Muscular System” p.45 ~p.51</li> <li>4. English sentence patterns II / ” Exercise for Everyone” p.4~p.5</li> <li>5. “Overview of the Body” p.6~p.7 / Quiz:English vowel sounds</li> <li>6. “Exercise Programs” p.8~p.9 / English consonant sounds</li> <li>7. “Physical Therapy and Physical Therapists” p.16 Therapeutic Exercises p.79~p.81</li> <li>9. Plane and Direction / Range of Motion p.22~p.32 Exercises p.34</li> <li>10. “The Skeletal System” p.36 / English consonant sounds</li> <li>11. “Bone Fractures” p.62~p.67 / Therapeutic Exercises p.72~p.73</li> <li>12. Negative sentences &amp; interrogative sentences</li> <li>13. “Parkinson’ s Disease” p.99~p.103</li> <li>14. Therapeutic Exercises p.89~p.91, p.97, p.108~p.110</li> <li>15. Review: Preposition / Negative &amp; interrogative sentences English sentence patterns / English vowel sounds</li> <li>16. Final examination</li> </ol>		
評価方法	終講試験 授業内小テスト、授業での発表・参加、提出物を考慮		
テキスト	編著：清水雅子『リハビリテーションの基礎英語 第3版』		
備 考	テキスト、配布印刷物、英和・和英辞書を毎回持参		



## Ⅱ. 専門基礎科目

---

1. 人体の構造と機能及び心身の発達
2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

授業科目	解剖学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	笠原 典夫		
授業目標 及び 到達目標	<p>医学や歯学、コ・メディカルと総称される医療系職種において人体の正常な構造と機能を理解することは極めて重要である。</p> <p>本講義においては、理学療法士にとって重要な解剖学の中でも運動器系の領域に重点を置きながら、特に神経・筋・運動作用について理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学総論</li> <li>2. 筋・末梢神経各論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 頭頸部</li> <li>2) 肩甲帯・上肢</li> <li>3) 手指</li> <li>4) 体幹</li> <li>5) 下肢</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	<p>編者：野村巖『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版』</p> <p>原著：Abrahams,P.H.・他『人体解剖カラーアトラス 原書第8版』</p>		
備 考			

授業科目	解剖学Ⅱ	単 位	3単位 (90時間)
開講時期	1年次 通年		
担当講師	笠原 典夫		
授業目標 および 到達目標	<p>医学や歯学、理学療法学など医学周辺科目を学ぶ者にとって、人体の正常な形態と構造を理解することは極めて重要である。</p> <p>また、人体は構造に応じた機能も有しており、これについて生理学で詳細に学ぶことになるが、両者は決して切り離して考えるものではない。</p> <p>本講義においては、理学療法士にとって重要な解剖学領域に重点を置きながら、人類学的に見た人間の特徴についても理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学総論</li> <li>2. 骨格系</li> <li>3. 関節系</li> <li>4. 靭帯系</li> <li>5. 消化器系</li> <li>6. 呼吸器系</li> <li>7. 泌尿生殖器系</li> <li>8. 内分泌系</li> <li>9. 脈管（循環器）系</li> <li>10. 神経系</li> <li>11. 感覚器系</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100点満点中60点以上合格）		
テキスト	編者：野村巖『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版』		
備 考			

授業科目	組織学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 前期		
担当講師	笠原 典夫		
授業目標 および	<p>人体の基本である細胞、細胞と細胞間質からなる組織、および組織が組み合わさった器官の正常構造を光学並びに電子顕微鏡レベルで修得し、それらの特徴を機能と共に正しく理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織学概論             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織学とは</li> <li>2) 組織学研究方法</li> <li>3) 細胞と組織</li> <li>4) 組織と器管の種類</li> </ol> </li> <li>2. 細胞学             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 核</li> <li>2) 細胞膜と突起</li> <li>3) 細胞小器官</li> <li>4) 細胞封入体</li> </ol> </li> <li>3. 発生学             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精子と卵子の発生</li> <li>2) 染色体</li> <li>3) 細胞分裂</li> <li>4) 組織発生</li> </ol> </li> <li>4. 組織学総論             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 上皮組織：上皮の分類と形態 ・腺の種類 ・皮膚と粘膜の構造</li> <li>2) 支持組織                 <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 結合組織 ・意義 ・結合組織の細胞 ・結合組織の細胞間質 ・結合組織の種類</li> <li>B. 軟骨組織 ・軟骨組織の分類 ・硝子軟骨 ・弾性軟骨 ・線維軟骨</li> <li>C. 骨組織 ・細胞の種類 ・微細構造 ・骨発生と成長および改造現象</li> <li>D. 血液とリンパ液 ・血液細胞の種類 ・リンパ液</li> <li>E. 造血組織 ・骨髄組織の構造</li> <li>F. 脈管組織 ・動脈 ・静脈 ・リンパ管</li> </ol> </li> <li>3) 筋組織                 <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 平滑筋 ・概説 ・平滑筋の構造</li> <li>B. 横紋筋 ・概説 ・骨格筋の構造 ・心筋の構造</li> </ol> </li> <li>4) 神経組織                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・概説 ・神経細胞 ・支持細胞 ・神経線維 ・シナプスの構造 ・末梢神経終末の構造</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>5. 組織学各論             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動器系                 <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 骨格系 ・骨 ・骨の連結 ・関節の構造</li> <li>B. 筋系 ・骨格筋 ・腱 ・補助装置 ・骨格筋の神経終末</li> </ol> </li> <li>2) 神経系                 <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 中枢神経系 ・脳 ・脊髄</li> <li>B. 末梢神経系</li> </ol> </li> <li>3) 消化器系：歯 ・食道 ・胃 ・小腸 ・大腸 ・肝臓 ・膵臓</li> <li>4) 呼吸器系：鼻腔 ・器管 ・肺の構造</li> <li>5) 内分泌系：内分泌器とホルモンの種類</li> <li>6) 泌尿器系：腎臓の構造</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編者：野村巖『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版』		
備 考			

授業科目	解剖学実習	単 位	1 単位 (45 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	阿部 伸一 橋本 正次 笠原 典夫		
授業目標 及び 到達目標	<p>講義で学ぶ平面的な人体のイメージではなく、三次元構造をもっている人間を正しく理解することが目的である。</p> <p>理学療法士は実際の人間を触り治療する職種であり、その内部構造を知ることが不可欠である。人体構造を正しく理解するために解剖学講師の指示のもと、確認していき、説明することができる。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習についてのオリエンテーション、注意事項説明</li> <li>2. 献体という篤志、白菊会についての説明</li> <li>3. 御献体を指導者と共に確認し、その剖出された構造を記録する。</li> <li>4. その構造から機能を類推し、人体の構造と機能を理解する。</li> </ol> <p>*時間的制約はあるものの、許容時間内で可能な限り人体構造を学ぶ。</p>		
評価方法	口頭試問 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	<p>編者：野村 巖『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版』</p> <p>原著：Abrahams, P.H.・他『人体解剖カラーアトラス 原書第8版』</p>		
備 考			

授業科目	生理学	単 位	3 単位 (90 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	谷端 淳		
授業目標 及び 到達目標	医学・コ・メディカル・医学周辺科目を学ぶ者にとって、人体の正常な反応を理解する。		
授 業 内 容	1. 生理学総論 2. 各論 ①細胞と内部環境 ②筋収縮、筋生理 (エネルギー代謝含む) ③神経系 ④感覚系 ⑤血液 ⑥心臓と循環 ⑦呼吸循環 ⑧消化と吸収 ⑨腎臓と排泄 ⑩内分泌、性と生殖		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編者：南沢 亨『PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 生理学』		
備 考			

授業科目	生化学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 前期		
担当講師	橋本 由美子		
授業目標 及び 到達目標	<p>授業目標：生体に存在する化学物質と、それらがどのように生体を構成しているか等、基礎的な事項（種類や役割）について学ぶ。</p> <p>到達目標：その上で、生きているということがどういうことなのかを、これらの物質の消化吸収と体内での化学反応という側面から（生化学 I では糖質代謝）理解できる。</p>		
授 業 内 容	<p>PowerPoint を用いた講義を行う。          双方向授業として講義内容の理解度などについての確認を行う。          確認問題を実施、双方向授業として無作為に解答をさせる。          予習は指示があった倍10分程度、復習としては15分程度ノートの整理や各単元の確認問題について理解をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1) 生化学とは (理学療法との関連など)              元素記号 酸塩基 結合手 官能基など</li> <li>2) 細胞             <ul style="list-style-type: none"> <li>・核、細胞小器官の構造と働き</li> <li>・細胞膜の構造と輸送形態</li> </ul> </li> <li>2. 糖質             <ul style="list-style-type: none"> <li>・単糖、オリゴ糖（二糖）、多糖の種類と働き</li> </ul> </li> <li>3. 脂質             <ul style="list-style-type: none"> <li>・飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸の種類と働き</li> <li>・必須脂肪酸</li> </ul> </li> <li>4. タンパク質             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アミノ酸の種類</li> <li>・必須アミノ酸</li> <li>・タンパク質の構造と働き</li> <li>単純タンパク質 複合タンパク質</li> </ul> </li> <li>5. 水と無機質             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水の役割</li> <li>2) 無機質の種類と役割</li> </ol> </li> <li>6. ビタミン             <ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶性ビタミン 脂溶性ビタミン</li> <li>・補酵素としての働き</li> </ul> </li> <li>7. 1) 代謝とは              2) 糖質代謝の概要</li> <li>8. 解糖系, クエン酸回路など</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格) であるが、必要に応じて確認プリントの配布や小テストを行う		
テキスト	著者：畠山鎮次『系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 第14版』		

授業科目	生化学Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	橋本 由美子		
授業目標 及び 到達目標	1 年次に学んだ基礎をもとに、物質代謝についてさらに詳細な機序や、臨床における生化学の重要性について理解する。		
授 業 内 容	<p>1, 2. 糖質代謝 解糖系 クエン酸回路 電子伝達系 ペントースリン酸経路など</p> <p>3. 脂質代謝 <math>\beta</math>酸化 ケトン体 脂質の合成など</p> <p>4. タンパク質代謝 アミノ基転移と酸化的脱アミノ反応 尿素回路など</p> <p>5, 6. 臨床検査分野 インフォームドコンセントおよびセカンドオピニオン 化学検査： 血清酵素検査 CRP 糖代謝の検査 窒素化合物の検査など</p> <p>7, 8. 遺伝生化学 遺伝の仕組み 核酸の構造 複製 転写 翻訳 遺伝疾患など まとめ</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格) であるが、必要に応じて、確認プリントの配布や小テストを行う		
テキスト	著者：畠山鎮次『系統看護お学講座 専門基礎分野 生化学 第 13 版』		
備 考			

授業科目	生理学実習	単 位	1 単位 (45 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	谷端 淳		
授業目標 及び 到達目標	講義を基に、実際、健常者同士での機能測定を経験・分析し、人体の正常な反応を理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚機能</li> <li>2. 血液</li> <li>3. 神経筋</li> <li>4. 循環器機能</li> <li>5. 呼吸器機能</li> <li>6. 腎機能</li> </ol>		
評価方法	レポート (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	運動学 I	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	<p>身体における「生体力学的・生理学的」要素を理解し、説明することが出来る。</p> <p>正常な「関節運動・動作」について理解し、説明することが出来る。</p> <p>解剖学や生理学で習得した知識を用いて、理解を深めることが出来る。</p>		
授 業 内 容	<p>1. 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動学とは</li> <li>・四肢と体幹の運動</li> </ul> <p>2. 各論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体力学の基礎 (身体運動の面と軸)</li> <li>・生体力学の基礎 (関節運動の表し方)</li> <li>・生体の構造と機能 (解剖学と生理学, 細胞, 組織)</li> <li>・生体の構造と機能 (運動器の構造と機能: 骨・関節)</li> <li>・生体の構造と機能 (運動器の構造と機能: 筋)</li> <li>・生体の構造と機能 (神経系)</li> <li>・上肢帯と上肢の運動</li> <li>・下肢帯と下肢の運動</li> </ul>		
評価方法	<p>前期: 筆記試験 (100%)</p> <p>後期: 筆記試験 (80%)、小テスト (20%)</p> <p>前期・後期ともに 100 点満点中 60 点以上を合格とする</p>		
テキスト	著者: 中村隆一他『基礎運動学 第7版』		
備 考	実技のできる服装で受講して下さい。		

授業科目	運動学Ⅱ	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	2 年次 通年		
担当講師	藤井 顕		
授業目標 及び 到達目標	運動学Ⅰに引き続き、人体構造と機能について、運動器を中心に病的状態について触れつつ、正常状態について調べ、理解する。		
授 業 内 容	1. 総論 1) 運動力学 2) 機能解剖・運動生理学の基礎 3) 運動分析・動作分析の基礎  2. 各論 1) 姿勢・動作 ①姿勢 ②歩行の基礎 ③異常歩行 2) 運動学習  3. 実習 1) 動作分析		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編著 : Kirsten Gotz-Neumann 訳 月城 慶一 他 『観察による歩行分析』  講師作成資料		

授業科目	人間発達学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	山岡 郁子		
授業目標 及び 到達目標	<p>運動機能面の発達では、乳児期を中心に学び、学生自身の体験を通して、どのような運動要素が発達するのかを理解し、説明できる。</p> <p>心理面の発達では、生涯発達という観点にも触れ、理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの発生 (胎生期) ・発達の原則と、ライフサイクルについて</li> <li>2. 運動発達 (理論と実技) と、関わる反射 (課題発表) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) head controlに関わる反射</li> <li>2) locomotionに関わる反射</li> <li>3) hand functionに関わる反射</li> </ol> </li> <li>3. 運動, 反射の発達のまとめ</li> <li>4. ADLの発達 (実技と理論) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食事機能の発達</li> <li>2) 排泄機能の発達</li> </ol> </li> <li>5. 感覚, 知覚, 認知の発達 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感覚と知覚・認知の違い: ルリアの理論</li> <li>2) 感覚入力統合: エガースの理論、ブラゼルトン、覚醒について</li> <li>3) 視機能の発達</li> <li>4) 触覚の発達、情緒との関わり: ハローの研究、触覚防衛等</li> <li>5) 前庭覚と固有受容覚の発達</li> <li>6) 言語の発達: アフォルターの発達理論</li> </ol> </li> <li>6. 心理, 社会的発達 <p>ピアジェ・エリクソンの発達理論</p> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	<p>編者: 上野雅之『イラストでわかる人間発達学』 医歯薬出版社</p>		
備 考	実技のできる服装で受講してください。		

授業科目	病理学概論	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	松坂 賢一 明石 良彦 國分 克寿 橋本 和彦		
授業目標 及び 到達目標	<p>疾患の原因、成り立ち、経過、転帰などについて、各臓器組織の差を越えて共通に見られる病変を病理画像所見と共に理解し、疾患の本態を学ぶ。</p> <p>併せて、肺、肝、腎、心、消化管、感染症等の代表的な疾病の内因（遺伝、内分泌障害、免疫）・外因（栄養障害、物理・化学・生物学的因子）を含めて理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>1. 病因論 内因(素因、遺伝染色体異常、内分泌障害、免疫) 外因(栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子)</p> <p>2. 先天異常</p> <p>3. 代謝異常</p> <p>4. 循環障害</p> <p>5. 炎症・免疫 最近の感染症の動向, 成り立ち, 治療方法</p> <p>6. 腫瘍・老化 最近解ってきた老化のメカニズム</p> <p>7. 細胞診(画像診断)、病理解剖など病理検査方法</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	系統看護学講座 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1)		

授業科目	臨床心理学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	小薬 理絵		
授業目標 及び 到達目標	<p>個人や集団の心理的な苦しみや悩み、不幸や不安を感じ、行動面でも首尾良く過ごせないで不適應に陥っている人々を対象に、どのような援助ができるのかを理解する。</p> <p>また、学生自身の人間関係や、患者とのコミュニケーション方法を理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の歩みと課題領域</li> <li>2. 臨床心理学の方法論</li> <li>3. 臨床心理アセスメント 心理テストや実践動画を確認しつつ理解する。</li> <li>4. 知能検査と質問紙検査 心理テストや実践動画を確認しつつ理解する。</li> <li>5. 心理療法とは何か 実際の動画確認や、学生同士の実践も行って理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神分析</li> <li>・行動療法</li> <li>・ヒューマンステイック・アプローチ</li> <li>・家族療法</li> </ul> </li> <li>6. 最近の動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児・青年期の臨床心理と摂食障害</li> <li>・特定高齢者の心理とフレイルとの関連</li> </ul> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：田畑治『臨床心理学～その発展と課題の広がり』		
備 考			

授業科目	医療学概論	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	藤崎 康人 藤井 顕 山岡 郁子 内山田 悟朗 國井 佳代子 中邑 まりこ 齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	医学とはどういったものを理解する。 また、第3の医学といわれる理学療法の概要を様々な観点から理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学の定義</li> <li>2. 健康・疾病の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命倫理</li> <li>2) 健康と病気</li> <li>3) 病気の原因</li> <li>4) 病原微生物と感染 (画像スライド)</li> <li>5) 消毒と滅菌 (薬品に関する知識を含む)</li> </ol> </li> <li>3. 医の倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医の倫理</li> <li>2) インフォームド・コンセント</li> <li>3) 守秘義務</li> </ol> </li> <li>4. 医療行為 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診療補助行為</li> <li>2) チーム医療</li> </ol> </li> <li>5. 保健と医療</li> </ol>		
評価方法	レポート (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	配布プリント		
備 考			

授業科目	一般臨床医学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	塩谷 尚志		
授業目標 及び 到達目標	疾患各論を学ぶ前に、臨床での全般的な疾患についての知識、疾患の特徴を表す画像や、治療薬・栄養学的観点も含めて理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般臨床医学総論</li> <li>2. 心血管系</li> <li>3. 生活習慣病</li> <li>4. 最近注目の疾患 サルコペニアとフレイル (タンパク質摂取と社会参加、高齢者精神衛生)</li> <li>5. 感染症・伝染病の疫学</li> <li>6. 意識障害・認知症の治療</li> <li>7. 補足 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の栄養摂取と誤嚥、肺炎</li> <li>・突然死</li> <li>・心肺蘇生の A B C</li> <li>・主な死因</li> </ul> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	『病気がみえる vol.2 循環器』MEDIC MEDIA 『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症』MEDIC MEDIA 『病気がみえる vol.7 脳・神経』MEDIC MEDIA		
備 考			

授業科目	内科学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	繁田 稔之		
授業目標 及び 到達目標	<p>内科学(medicine)は疾病を癒やし、健康を回復し、これを保持する“医”の本道となるものであり、臨床医学の基礎となるものである。</p> <p>内科学は疾病の本態と原因を明らかにし、疾病を発見し、対処して、患者の社会生活を可能な限りに健康的に維持するための臨床科学であるといえる。これを踏まえ、国家試験突破を主眼に置き、理学療法士として知るべきことを理解する。</p> <p>前期では、循環器、呼吸器の解剖(画像含む)・生理学(栄養学的・治療薬の効果の理解を含む)の確認を交えながら、固有の疾患について理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学に関わる解剖と生理・病理学</li> <li>2. 循環器疾患 (1) - (3)</li> <li>3. 呼吸器疾患 (1) ・ (2)</li> <li>4. 内分泌疾患</li> <li>5. 代謝性疾患</li> <li>6. 血液・造血器疾患</li> <li>7. 画像診断、栄養摂取状況と生化学検査</li> <li>8. 治療と治療薬</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	執筆：東田俊彦『iMedicine シリーズ』		
備 考			

授業科目	内科学Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	繁田 稔之		
授業目標 及び 到達目標	<p>内科学(medicine)は疾病を癒やし、健康を回復し、これを保持する“医”の本道となるものであり、臨床医学の基礎となるものである。</p> <p>内科学は疾病の本態と原因を明らかにし、疾病を発見し、対処して、患者の社会生活を可能な限りに健康的に維持するための臨床科学であるといえる。これを踏まえ、国家試験突破を主眼に置き、理学療法士として知るべきことを理解する。</p> <p>後期では、各種疾患の中でも感染症は情報量も多い為、時間をかけて理解する。また、疾患・治療を理解するための画像や、治療薬・栄養学的観点からも疾患を捉える。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養摂取状況と各疾患の関わり</li> <li>2. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全</li> <li>3. 消化器疾患</li> <li>4. 肝・胆・膵疾患</li> <li>5. 腎・尿路系疾患</li> <li>6. 感染症 (1) ・ (2)</li> <li>7. 環境因子と疾患・中毒</li> <li>8. 各疾患の治療選択と治療薬</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	執筆：東田俊彦『iMedicine シリーズ』		
備 考			

授業科目	整形外科学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	熱田 智範 井上 雅寛 川島 明		
授業目標 及び 到達目標	運動器の疾患、障害の臨床について疾患の画像を用いり、薬理学的・栄養学的観点からも広く理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科とは 手術療法と保存療法の実際 (画像・動画)</li> <li>2. 骨・軟骨・靭帯・腱・神経・筋肉の発生、解剖</li> <li>3. Ca 代謝およびCa 調節ホルモン動能学</li> <li>4. 老年医学 (運動器) ・骨粗鬆症</li> <li>5. 代謝性骨疾患</li> <li>6. 骨腫瘍、軟部腫瘍</li> <li>7. 神経疾患、筋疾患</li> <li>8. 骨・関節・筋肉の感染症</li> <li>9. リウマチとその類縁疾患</li> <li>10. 各関節に発生しやすい疾患</li> <li>11. 医用画像診断</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編集：井樋栄二・他『標準整形外科学 第 15 版』		
備 考			

授業科目	整形外科Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	熱田 智範 松浦 佑介 川島 明		
授業目標 及び 到達目標	<p>整形外科的疾患のうち、下記部位の疾患各論についてレントゲン画像、MRI 画像、エコー画像などと共に学ぶ。 特に理学療法を实践する上で重要な整形外科的治療について手術療法、薬理的・栄養学的な観点も含め、理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頸椎部疾患</li> <li>2. 胸椎部疾患</li> <li>3. 腰椎部疾患</li> <li>4. 慢性関節疾患－退行性・代謝性－</li> <li>5. 四肢循環障害と阻血性壊死疾患</li> <li>6. 先天性骨系統疾患と先天異常症候群</li> <li>7. 各関節に発生しやすい疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 肩関節</li> <li>2) 肘関節</li> <li>3) 手関節、手指</li> <li>4) 上肢、下肢の骨折と脱臼</li> </ol> </li> <li>8. 機能再建外科学・膝関節外科学</li> <li>9. 生体材料学</li> <li>10. 観血療法・大腿骨頸部骨折</li> <li>11. 非観血療法</li> <li>12. 医療画像診断 (レントゲン画像、MRI 画像、エコー画像)</li> <li>13. 内服薬と外用薬について</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編集：井樋栄二・他『標準整形外科学 第 15 版』		
備 考			

授業科目	神経内科学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	北島 具秀		
授業目標 及び 到達目標	<p>神経疾患とリハビリテーションの関わり合い方は密接である。  前期については、脳神経外科などにまたがることも多い脳血管障害の基礎となる中枢神経系の解剖学、神経生理学を画像所見と照し合せながら疾患の説明を行っていく。  併せて、再発予防などについても理学療法士として知る。  知識を確実なものにするだけでなく、専門的興味を抱いてリハビリテーション領域の神経学を理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系の解剖と機能</li> <li>2. 神経学的診断法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 神経学的診断と評価</li> <li>2) 神経学的検査法</li> </ol> </li> <li>3. 神経症候学 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 意識障害・脳死・植物状態</li> <li>2) 運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮</li> <li>3) 錐体外路徴候</li> <li>4) 運動失調</li> <li>5) 感覚障害</li> <li>6) 高次脳機能障害：失語症・記憶障害・痴呆</li> <li>7) 構音障害</li> <li>8) 嚥下障害</li> <li>9) 脳神経外科領域</li> </ol> </li> <li>4. 医用画像診断</li> <li>5. 薬理学・栄養学</li> <li>6. 予防</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	『病気がみえる vol.7 脳・神経』MEDIC MEDIA		
備 考	<p>著者：R.Nieuwenhuys 他「図説 中枢神経系」  『カラー神経解剖学 第4版 テキストとアトラス』  著者：ジョン・H・マーティン 監訳：野村巖 金子武嗣 西村書店</p>		

授業科目	神経内科学Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	ネルソン 祥子		
授業目標 及び 到達目標	<p>神経内科学Ⅰでも触れた通り、神経疾患とリハビリテーションの関わり合い方は密接である。</p> <p>特に変性疾患においては徐々に進行していく障害に患者や家族も含めての精神的サポートも必要とする。</p> <p>患者は、やがて動けなくなり、食事ができなくなり、着替えができなくなり、トイレができなくなっていく、ADLの低下を両者は、真のあたりにしていくからである。</p> <p>その過程において正しい疾患の知識を得た上で、理学療法アプローチを行う事は重要なことである。</p> <p>後期は変性疾患を中心に、正しい神経所見のみかた、評価の仕方、正しい症候の知識を学習し、理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>1. 神経疾患各</p> <p>1) 中枢神経系：脳血管障害・痴呆</p> <p>2) 中枢神経疾患：頭部障害（軸索障害を含む）</p> <p>3) 中枢神経系：脊髄損傷・変性疾患（錐体外路系を除く） 脱髄疾患・錐体外路の変性疾患</p> <p>4) 末梢神経障害</p> <p>5) 筋疾患</p> <p>6) 感染性疾患</p> <p>7) 小児神経疾患</p> <p>2. 医用画像</p> <p>3. 薬理学・栄養学</p>		
評価方法	筆記試験（100 点満点中 60 点以上合格）		
テキスト	参考図書：著者：田崎義昭他『ベッドサイドの神経の診かた』 講師作成資料		
備 考			

授業科目	精神医学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	鈴木 みね子		
授業目標 及び 到達目標	<p>人間は生物学的な存在だけでなく、心理的，社会的，実存的存在である。脳機能のうち精神活動が障害されて、不適応状態にあるものを対象とする医学なので範囲も広い。</p> <p>リハビリテーション関係疾患として、認知症や依存症も最新の治療薬効果など、変化が目覚ましい領域であるが、広く理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の正常機能と主要症状</li> <li>2. 精神保健と関係法規</li> <li>3. 各論（責任病変画像を確認する） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 反応の異常</li> <li>2) 内因性精神病</li> <li>3) 認知症</li> <li>4) 性格及び行動の障害</li> <li>5) 小児・青年期の精神障害</li> <li>6) けいれん性疾患，てんかん</li> </ol> </li> <li>4. 精神疾患に関わる薬理学（栄養学的観点と共に）</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100 点満点中 60 点以上合格）		
テキスト	編者：上野武治『標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版 増補版』		
備 考			

授業科目	小児科学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 通年		
担当講師	臼井 信男 所 敏治		
授業目標 及び 到達目標	<p>「子供は小さな大人ではない」ということが、子供達を理解する上で重要なことである。</p> <p>身体発達のみならず、社会的発達・神経構造の変化、子供を取り巻く環境にも触れ、それらを基盤に小児期に多い疾患を画像スライド、動きが特徴的なものについては動画ともに確認し、理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>担当：臼井 信男</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの成長と発達</li> <li>2. 出生前小児科学 (画像、動画含む)</li> <li>3. 小児栄養</li> <li>4. 小児期の疾患</li> </ol> <p>担当：所 敏治</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の心の発達</li> <li>2. 感染症とワクチン</li> <li>3. 食物摂取とアレルギー</li> <li>4. 肥満</li> <li>5. 消化器疾患</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：富田豊『標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第3版』		
備 考			

授業科目	老年医学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 前期		
担当講師	ネルソン 祥子 大山 真吾		
授業目標 及び 到達目標	<p>加齢における変化は、予想もつかない様々な状態を引き起こす。 内科学や神経内科学で得た個々の疾患の知識 (画像・薬理学・栄養学を含む) を元に、老年医学においては高齢者を臓器別で捉えるのではなく、全体の中での症候学の観点より、障害を捉えていくトレーニングを行う。</p>		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年医学総論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年学と老年医学</li> <li>2) 老化の機序</li> <li>3) 老年病の臨床</li> <li>4) 老年者に特有な症候 (画像・動画確認)</li> <li>5) 老年者の救急疾患と対策</li> <li>6) 老年者の栄養摂取と検査値の変化と意義</li> </ol> </li> <li>2. 老年病各論 (各疾患特有の状態は、画像と動画で確認する。) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神疾患</li> <li>2) 神経疾患</li> <li>3) 呼吸器疾患</li> <li>4) 心臓疾患</li> <li>5) 血圧異常と血管疾患</li> <li>6) 消化器疾患</li> <li>7) 腎・泌尿器疾患</li> <li>8) 内分泌・代謝疾患</li> <li>9) 骨・運動器疾患</li> <li>10) 血液疾患</li> <li>11) 感染症・免疫・膠原病</li> <li>12) 感覚器障害 (コミュニケーション障害)</li> <li>13) 皮膚・口腔疾患</li> <li>14) 外科疾患</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：大内尉義『標準理学療法学・作業療法学 老年学 第3版』		
備 考			

授業科目	救急医学・蘇生法	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 前期		
担当講師	水野 憲宏		
授業目標 及び 到達目標	<p>リハビリテーションの実施も医療の一端である以上、いつ緊急事態に直面しても不思議ではない。</p> <p>これから基本的に遭遇しやすい疾患・現象を知り、一次救命措置の知識を知り、基本的な措置が実践できるようになる。</p> <p>心電図画像を読みとる能力もあわせて、トレーニングする。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 早期除細動はなぜ必要か</li> <li>2. AEDを用いた除細動と心電図</li> <li>3. 突然死を防ぐために</li> <li>4. AEDを用いる心肺蘇生法の手順</li> <li>5. 感染対策</li> <li>6. AEDと法的整理について</li> <li>7. AED講習カリキュラム</li> <li>8. 意識レベルの評価</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (50 点)・実技試験 (50 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	リハビリテーション概論 I	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	藤井 顕		
授業目標 及び 到達目標	<p>リハビリテーションの概念・理念と社会における必要性・医学的リハビリテーションと関連領域・専門職について、理解する。</p> <p>リハビリテーション場面を通して高齢者・障がい者との関りを早期体験する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念と歴史 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言葉の由来</li> <li>2) リハビリテーションの定義</li> <li>3) リハビリテーションの対象</li> <li>4) リハビリテーションの歴史的展開・障害者運動</li> </ol> </li> <li>2. 障害と障害者 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) I C I D H と I C F</li> <li>2) 障害者心理</li> </ol> </li> <li>3. 医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自立支援</li> <li>2) 就労支援</li> </ol> </li> <li>4. 理学療法の展開</li> <li>5. リハビリテーション関連職種・関係法規</li> <li>6. 社会保障・地域リハビリテーション・地域包括ケアシステム</li> <li>7. 病院・施設での早期体験学習</li> <li>8. その他</li> </ol>		
評価方法	筆記 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編者：中村隆一『入門 リハビリテーション概論』		

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	藤井 顕 丸山 友子 鈴木 翔太 松田 衣里加		
授業目標 及び 到達目標	<p>リハビリテーションと関連領域・専門職について、連携共同しチームで問題を解決していくことを理解する。</p> <p>また、地域での他職種との連携についても考え、理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>1. リハビリテーションの理念</p> <p>2. 多専門職との連携</p> <p>    (1) 看護師との連携</p> <p>    (2) 作業療法士との連携</p> <p>    (3) 言語聴覚士との連携</p> <p>3. 総括</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編者：中村隆一『入門 リハビリテーション概論』		
備 考			

授業科目	リハビリテーション医学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 通年		
担当講師	小沼 亮		
授業目標 及び 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念と定義を理解する。</li> <li>2. リハビリテーション医学・医療の特徴について理解する。</li> <li>3. 国際生活機能分類 (ICF) について理解する。</li> <li>4. チーム医療、多職種連携・協働の重要性について理解する。</li> <li>5. 各疾患のリハビリテーション治療の概要について理解する。</li> </ol>		
授 業 内 容	<p>第 1 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・リハビリテーションの理念と定義、リハビリテーション医学の特徴</li> </ul> <p>第 2 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際生活機能分類 (ICF)</li> </ul> <p>第 3 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療、多職種連携と協働の重要性</li> <li>・リスク管理、医療安全と感染対策</li> </ul> <p>第 4 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICUにおける早期離床・リハビリテーション</li> <li>・心大血管疾患リハビリテーション</li> </ul> <p>第 5 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管疾患・神経筋疾患のリハビリテーション</li> </ul> <p>第 6 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器リハビリテーション</li> <li>・呼吸器リハビリテーション</li> </ul> <p>第 7 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃用症候群のリハビリテーション</li> <li>・がん患者リハビリテーション</li> </ul> <p>第 8 回：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓リハビリテーション</li> <li>・糖尿病のリハビリテーション</li> </ul> <p><b>※第 1 回～第 4 回の授業終了後に中間試験を実施予定</b></p>		
評価方法	中間試験 (40%) + 期末本試験 (60%) = 100% (60%未満は不合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			



### Ⅲ. 専門科目

---

1. 基礎理学療法学
2. 理学療法管理学
3. 理学療法評価学
4. 理学療法治療学
5. 地域理学療法学
6. 臨床実習

授業科目	理学療法概論 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	1 年次 後期		
担当講師	中邑 まりこ		
授業目標 及び 到達目標	理学療法士としての適性、理学療法の歴史、理学療法士の法律制度等を学ぶことで、理学療法及び、理学療法士に関する知識を理解する。また、それを説明できるようにする。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法についての基礎知識</li> <li>2. 理学療法士としての適性</li> <li>3. 理学療法と倫理・哲学</li> <li>4. 理学療法の歴史</li> <li>5. 理学療法士の法律制度</li> <li>6. 理学療法の基礎用語</li> <li>7. 障害の疑似体験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	参考 編著：奈良勲『理学療法概論』医歯薬出版株式会社		

授業科目	理学療法概論Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	岡田 亨		
授業目標 及び 到達目標	医療・福祉・精神心理・理学療法分野における歴史・人物を調べ、論理・用語に関する知識を深める。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史人物調査・キーワード設定</li> <li>2. 資料作成</li> <li>3. 発表</li> <li>4. 学生としての学習方法</li> <li>5. コミュニケーション技法</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	各ジャーナル・その他		
備 考			

授業科目	理学療法概論Ⅲ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	内山田 悟朗		
授業目標 及び 到達目標	臨床実習に関する学習を行い、取り組みや考え方等の理解を深める。		
授 業 内 容	1. 評価法実技 (復習) 2. 症例検討 (整形外科分野) ①問題点抽出 ②評価実技 3. 症例検討 (脳血管障害) ①問題点抽出 ②評価実技 4. 実習事例・検証 5. 問診・コミュニケーション技法 6. OSCE (1・3 年合同授業) 7. OSCE (1・3 年合同授業) 8. 実習後のおける検証		
評価方法	問診技法・OSCE による実技採点		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	卒業研究	単 位	3 単位 (90 時間)
開講時期	3 年次 通年、 4 年次 前期		
担当講師	藤井 顕 山岡 郁子 内山田 悟朗 國井 佳代子 中邑 まりこ 齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	<p>理学療法士として自分の考えを立証していく過程を、ゼミ形式をとり、指導教員とコミュニケーションを取りながら、自ら実践する。</p> <p>4 年次には、発表にむけて、自らの研究データを分析し、まとめ、教員に報告し抄録を提出し、その後、在校生と全教員への発表を行い、自らの研究成果について討論する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究とは</li> <li>2. 研修の進め方</li> <li>3. テーマの選定</li> <li>4. 研究計画提出</li> <li>5. 研究方法実践</li> <li>6. データー収集</li> <li>7. データー分析</li> <li>8. まとめ</li> </ol> <p>【研究の流れ】</p> <p>3 年次</p> <p>5 月下旬・・・卒論テーマ発表会提出・研究計画書作成</p> <p>6 月中旬・・・研究内容発表、予備研究開始</p> <p>6 月下旬・・・仮実験データ分析</p> <p>7 月上旬・・・本実験開始</p> <p>8 月・・・本実験データ分析</p> <p>1 1 月下旬・・・抄録作成開始 (暫定的)</p> <p>4 年次</p> <p>4 月上旬・・・指導教員に抄録提出本研究抄録提出し捺印の上、担任へ提出</p> <p>4 月中旬・・・プレゼンテーションデータを指導教員に提出後、担任へ提出</p> <p>4 月下旬・・・卒業研究発表会 発表後、在校生、教員と討論し、考察を深める。</p> <p>1 2 月中旬・・・抄録集作成</p>		
評価方法	最終発表時 100 点満点中 60 点以上合格		
テキスト			
備 考			

授業科目	理学療法管理学 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 前期		
担当講師	國井 佳代子		
授業目標 及び 到達目標	<p>専門分野としての理学療法部門における業務を効率よく運営するため、必要な組織的な管理や機能について学び、専門職としての理学療法の位置付けについて考える。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法部門における管理</li> <li>2. 理学療法の役割と職域</li> <li>3. 理学療法士に関する法律 (関連職種 of 法律を含む)</li> <li>4. 理学療法施設基準と診療報酬</li> <li>5. 医療事故 (ロールプレイ)</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	理学療法管理学Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	4 年次 前期		
担当講師	村永 信吾		
授業目標 及び 到達目標	<p>時代が変化していく中、リハビリテーション医学を取り巻く環境も変化してきている。</p> <p>社会からリハビリテーションや、理学療法士がどのように捉えられているのかも学ぶ中で、疾病予防及び健康増進に関する取り組みの役割について理解する。</p> <p>また、代謝性疾患、特に糖尿病の運動療法に関する基礎的な知識についても理解する。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション医療を取り巻く環境について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 理学療法士の職業倫理</li> <li>(2) 組織運営とマネジメント</li> <li>(3) 理学療法士の職場管理</li> <li>(4) 理学療法業務のマネジメント</li> <li>(5) 教育・研究のマネジメント</li> <li>(6) 保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント</li> </ol> </li> <li>2. 疾病予防及び健康増進に関する取り組みについて</li> <li>3. 疾患別・病期別のマネジメント <p style="margin-left: 2em;">特に代謝性疾患の運動療法について～糖尿病を中心に～</p> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	臨床運動学	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	3 年次 通年		
担当講師	遊佐 隆		
授業目標 及び 到達目標	人体構造と機能について、運動器を中心に、病的状態について触れつつ、正常な状態を理解する。		
授 業 内 容	<p>1. オリエンテーション 講義 (原)</p> <p>1 章 臨床運動学とは</p> <p>2 章 身体運動の分析</p> <p>2. 学生による課題発表</p> <p>3 章 関節運動</p> <p>(1) 関節モーメントの推定計測</p> <p>4 章 筋活動と筋張力</p> <p>(1) 立ち上がり動作の分析</p> <p>5 章 反射と反応</p> <p>6 章 不随意運動</p> <p>7 章 随意運動</p> <p>(1) 筋力の測定</p> <p>8 章 姿勢</p> <p>(1) 重心と重心動揺の測定</p> <p>9 章 歩行</p> <p>(1) 歩行動作解析</p> <p>(2) 片麻痺装具歩行の分析</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者：中村隆一他『臨床運動学』		
備 考			

授業科目	理学療法評価法 I	単 位	3 単位 (90 時間)
開講時期	2 年次 通年 全 23 回 (前期 11 回・後期 12 回)		
担当講師	齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	理学療法評価に関する専門知識及び技術を習得し、問題点の把握・治療プログラムの立案・効果判定などの重要な情報として活用できるよう講義や実技から理解度を高める。		
授 業 内 容	<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論 (理学療法における評価、情報収集)</li> <li>2. 形態測定</li> <li>3. 知覚検査</li> <li>4. 反射検査</li> <li>5. 関節可動域測定</li> <li>6. 実技試験</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋力検査 (徒手筋力検査法)</li> <li>2. 痛みの評価</li> <li>3. 整形外科疾患検査</li> <li>4. 実技試験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (50 点)・実技試験 (50 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編集：内山靖・岩井信彦『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』 著者：Helen J. Hislop 他『新徒手筋力検査法 原著第 10 版』 講師作成資料		
備 考	実技演習がある場合は、動きやすい格好 (Tシャツ・短パン等) でいること。 また、検査・測定に使用する器具を持参すること。		

授業科目	理学療法評価法Ⅱ	単 位	3単位 (90時間)
開講時期	3年次 通年 全23回 (前期12回・後期11回)		
担当講師	齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	各検査項目の意義と理解、技術の習得。情報の収集・分析能力を高め、治療方針の立案、治療効果の確認を的確に行えるようにする。 また折に触れ、各評価が対象となる疾患の画像を紹介していくので、症状と評価の結果の関連について理解する。		
授 業 内 容	<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 片麻痺機能評価</li> <li>2. 筋緊張検査</li> <li>3. 高次脳機能検査と画像評価</li> <li>4. 脳神経検査</li> <li>5. 協調性検査</li> <li>6. 日常生活動作評価</li> <li>7. バランス検査</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 姿勢・動作分析</li> <li>2. 臨床推論・症例検討</li> <li>3. 臨床実習前 OSCE の振り返り</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100点満点中60点以上合格)		
テキスト	編集：内山靖・岩井信彦『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』 著者：Helen J. Hislop 他『新・徒手筋力検査法 第10版』		
備 考	実技は動きやすい服装の準備をすること。		

授業科目	運動療法 I 総論	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	阿部 雅弘		
授業目標 及び 到達目標	基礎知識の確認も含め、運動療法の基本的概念の理解を深めて知識と技術を理解する。		
授 業 内 容	<p>オリエンテーション、基礎知識（解剖・生理・運動学）の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動療法の歴史／痛みに対する運動療法</li> <li>2. 関節の構造と運動／筋と筋収縮</li> <li>3. 運動の種類／関節可動域運動</li> <li>4. 組織の病態生理と修復</li> <li>5. 協調性運動</li> <li>6. 筋力増強運動</li> <li>7. 持久力増強運動</li> <li>8. 運動学習</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100 点満点中 60 点以上合格）		
テキスト	編者：吉尾雅春『標準理学療法学 運動療法学 総論 第 4 版』		
備 考	実技演習がある場合は、動きやすい格好（Tシャツ・短パン等）でいること。		

授業科目	運動療法Ⅱ 整形外科疾患	単 位	2単位 (60時間)
開講時期	3年次 通年		
担当講師	高井 豊		
授業目標 および 到達目標	整形外科疾患の意義と理解、各疾患の治療技術の習得。治療方針の立案、治療効果の確認を的確に行えるようにする。		
授 業 内 容	<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科疾患領域の理学療法の概要</li> <li>2. 腰痛</li> <li>3. 体幹疾患</li> <li>4. 肩関節の機能解剖及び理学療法評価</li> <li>5. 五十肩</li> <li>6. 末梢神経損傷</li> <li>7. 骨折の概要</li> <li>8. 上肢・手部の骨折</li> <li>9. 脊椎・骨盤・下肢の骨折</li> <li>10. 半月板損傷</li> <li>11. 前十字靭帯損傷</li> <li>12. 変形性膝関節症</li> <li>13. アキレス腱断裂</li> <li>14. 大腿骨頸部骨折</li> <li>15. 骨腫瘍・軟部腫瘍</li> <li>16. 神経・筋の系統疾患</li> <li>17. 関節疾患</li> <li>18. 熱傷</li> </ol> <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常運動分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・背臥位                      ・座位                      ・歩行</li> <li>・寝返り                    ・立ち上がり            ・ポジショニング、トランスファー</li> <li>・起き上がり                ・立位</li> </ul> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100点満点中 60点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	実技では動きやすい服装を準備すること。		

授業科目	運動療法Ⅲ 脊髄損傷	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	河合 麻美		
授業目標 及び 到達目標	脊髄損傷に関する運動療法の基礎を理解する。		
授 業 内 容	<p>1. 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊損とは</li> <li>・受傷原因①</li> <li>・受傷原因②</li> <li>・頸椎損傷の病態</li> <li>・脊髄損傷の管理</li> <li>・リハビリテーション</li> </ul> <p>2. 脊髄損傷の理学療法評価と理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄障害高位表示法</li> <li>・脊髄障害のレベル診断</li> <li>・随伴症・合併症</li> <li>・自律神経障害</li> <li>・褥瘡</li> <li>・急性期の医学的処置と評価</li> <li>・脊髄損傷の理学療法</li> <li>・離床期の理学療法</li> </ul> <p>3. 脊髄損傷者の生活の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車の運転</li> <li>・車椅子</li> <li>・身体障害者スポーツ</li> <li>・職業リハビリテーション</li> </ul> <p>4. セグメント別頸損・胸損・腰損の理学療法評価・実技</p> <p>5. 国家試験問題演習</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		

授業科目	運動療法Ⅳ 小児疾患	単 位	2単位 (60時間)
開講時期	3年次 通年		
担当講師	近藤 裕美 高木 秀明		
授業目標 及び 到達目標	理学療法の対象となる脳性麻痺・発達障害児・神経筋疾患などの児童への支援や運動発達・生活について理解する。その中で、子どもの発達を促す関わり方について理解し、理学療法技術・評価を学び、効果的に進められるよう統合的に理解する。		
授 業 内 容	<p>オリエンテーション</p> <p>小児リハビリテーション総論</p> <p>運動発達 (0-3 か月、4-6 か月、7-9 か月、10-12 か月)</p> <p>脳性麻痺の類型別理学療法・評価</p> <p>重症心身障害児・者への支援</p> <p>筋ジストロフィーの理学療法・評価</p> <p>発達障害やその他 障がいへの理学療法・評価 (発達障害、ダウン症候群、染色体異常、整形外科疾患)</p> <p>実技 (抱っこ、ポジショニング・ハンドリング、補装具)</p>		
評価方法	筆記試験 (100点満点中 60点以上合格)		
テキスト	藪中良彦：Crosslink 理学療法テキスト「小児理学療法学」		

授業科目	運動療法Ⅴ 呼吸器疾患・他	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	稲垣 武、石井正二		
授業目標 及び 到達目標	① 代表的な呼吸・代謝・腎疾患の病態と、それぞれに対する基本的な理学療法を理解できる。 ② 呼吸理学療法手技の定義、適応、禁忌を理解し、実施できる。 ③ 気管吸引や呼吸療法について理解できる。		
授 業 内 容	1. 概論・呼吸生理の復習 2. 慢性呼吸器疾患の呼吸理学療法 3. 呼吸理学療法における評価 4. フィジカルアセスメント (実技) 5. 外科周術期の呼吸理学療法 6. 集中治療領域の呼吸理学療法 7. 呼吸理学療法手技 (実技) 8. 呼吸理学療法手技 (実技) 9. 高齢者肺炎の呼吸理学療法 10. 呼吸療法の理解 (酸素療法・人工呼吸療法) 11. 糖尿病の理学療法 12. 腎疾患の理学療法 13. 呼吸管理・喀痰・吸引 14. 呼吸管理・喀痰・吸引 15. 呼吸管理・喀痰・吸引		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 中山書店 2022 年		

授業科目	運動療法VI 循環器疾患	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	小川 明宏		
授業目標 及び 到達目標	<p>酸素搬送障害に対し適切な評価と理学療法、及び患者指導ができるよう、基礎知識や病態生理を理解し、関連する理論と技術を学ぶ。</p> <p>総論では、酸素搬送系障害とは何かを学び、各論の循環器系障害では、循環器系の障害特性や基本的な評価、プログラムを学ぶ。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酸素搬送系障害総論：内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酸素搬送系障害の概念</li> <li>2) 廃用性変化</li> <li>3) 生活習慣病の概念</li> </ol> </li> <li>2. 循環器系障害：基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器系に関する解剖学、生理学、運動学</li> <li>2) 心電図の診かた①</li> </ol> </li> <li>3. 循環器系障害：循環器領域の診かた 1・2 (実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィジカルアセスメント (バイタルサイン①・②)</li> </ol> </li> <li>4. 循環器系障害：理学療法評価 1 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器疾患の病態生理</li> <li>2) 医学的検査法と治療法など</li> </ol> </li> <li>5. 循環器系障害：理学療法評価 2 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理学療法評価 (虚血性心疾患)</li> </ol> </li> <li>6. 循環器系障害：循環器領域の診かた 3 (実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィジカルアセスメント (心臓の診かた)</li> </ol> </li> <li>7. 循環器系障害：循環器領域の診かた 4 (実習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィジカルアセスメント (心臓の診かた、頸部血管の診かた)</li> </ol> </li> <li>8. 循環器系障害：理学療法プログラム 1 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓リハビリテーション (総論)</li> <li>2) 心臓リハビリテーション (心筋梗塞：急性期)</li> </ol> </li> <li>9. 循環器系障害：理学療法プログラム 2 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓リハビリテーション (心筋梗塞：回復期)</li> <li>2) リスク管理</li> </ol> </li> <li>10. 循環器系障害：循環器領域の診かた 5 (演習・実技) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィジカルアセスメント (末梢循環不全の診かた)</li> <li>2) 心電図の診かた②</li> </ol> </li> <li>11. 循環器系障害：循環器領域の診かた 6 (演習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心電図の診かた③</li> </ol> </li> <li>12. 循環器系障害：理学療法プログラム 3 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓リハビリテーション (合併症：心不全)</li> </ol> </li> <li>13. 循環器系障害：末梢循環障害 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 末梢循環障害 (動脈系・静脈・リンパ系)</li> </ol> </li> <li>14. 循環器系障害：大血管障害 (講義) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大血管障害 (動脈瘤・動脈解離)</li> </ol> </li> <li>15. 循環器系障害：循環器領域の診かた 7 (演習) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心電図の診かた④</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	<p>講師作成資料 著者：丸岡弘『リハビリテーションのためのぱっとみてわかる心電図』</p> <p>編者：山崎裕司他『シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト』</p>		

授業科目	運動療法Ⅶ 中枢神経疾患	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 前期		
担当講師	山岡 郁子		
授業目標 及び 到達目標	中枢神経系疾患患者の動きを模倣でき、治療選択の根拠や、治療の立案について考えを広げられるようになる。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回復過程における治療の考えと運動療法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 急性期</li> <li>(2) 回復期</li> <li>(3) 生活期</li> </ol> </li> <li>2. 成人片麻痺者の動きの特徴</li> <li>3. 健常者・片麻痺者の姿勢の特徴と評価・治療場面での選択 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 背臥位</li> <li>(2) 腹臥位</li> <li>(3) 側臥位</li> <li>(4) 座位</li> <li>(5) 立位</li> <li>(6) 片脚立位・片脚足尖立位</li> <li>(7) 膝立ち位・片膝立ち位</li> </ol> </li> <li>4. 健常者・片麻痺者の各姿勢からの動き <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 背臥位から長坐位・端坐位への起き上がり</li> <li>(2) 端坐位からの立位への立ち上がり</li> <li>(3) 長坐位(床)から立位への立ち上がり</li> <li>(4) 腹臥位から四つ這い位</li> <li>(5) 四つ這い位から膝立ち位</li> <li>(6) 膝立ち位から片膝立ち・立ちあがり</li> <li>(7) 歩行・応用歩行</li> </ol> </li> <li>5. 日常生活動作と運動</li> <li>6. 模擬患者を想定し症例報告書の作成</li> </ol>		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 (50 点)・レポート (50 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	監修：鈴木 俊明『脳卒中運動学』		
備 考	動きやすい服装を準備すること。		

授業科目	運動療法Ⅷ 神経筋疾患	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 前期		
担当講師	ネルソン 祥子		
授業目標 及び 到達目標	神経筋疾患の原因、分類、検査測定、治療、評価を学習する。 理学療法に用いられる物理療法、装具療法、運動療法について学び、 疾患の急性期から慢性期まで経過を追って、画像と共に理解できる。 併せてリスク管理を学ぶ。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脱髄疾患</li> <li>2. 錐体外路疾患</li> <li>3. 脊髄小脳変性症</li> <li>4. 運動ニューロン変性疾患</li> <li>5. Neuro-muscler junction disease</li> <li>6. 代謝異常</li> <li>7. 筋ジストロフィー</li> </ol>		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	『病気がみえる Vol.7 脳・神経』MEDIC MEDIA		
備 考			

授業科目	物理療法 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	中邑 まりこ		
授業目標 及び 到達目標	<p>治療法の物理学的作用、生理学的作用、治療用機器の原理、疾患の適応・禁忌、リスク管理を理解し、治療を行うことが出来る。</p> <p>実技により、自らの体験と他者への施行を通して、物理療法手技を身に付け生理学的作用や効果を理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>1. 総論</p> <p>①物理療法概念 (熱, 光, 力, 水)</p> <p>②病態の理解</p> <p>③物理療法の効果, 適応, 禁忌およびリスク管理を理解する。</p> <p>2. 各論</p> <p>①温熱療法 (ホットパック, パラフィン)</p> <p>②寒冷療法</p> <p>③水治療法</p> <p>④牽引療法</p> <p>3. グループ学習</p>		
評価方法	筆記試験 (90 点)・小テスト (10 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	物理療法Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 通年		
担当講師	斎藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	物理療法の概念を学び、主な病態との関わりや生理的作用・効果・禁忌と適応など理解し、実技では物理療法の手技や生体の反応を確認し、治療における必要な基礎知識を理解する。		
授 業 内 容	<p>オリエンテーション</p> <p>I. 光線療法 1) 赤外線療法 2) 紫外線療法</p> <p>II. 温熱療法 (エネルギー変換熱療法) 1) 極超短波療法 2) 超短波療法 3) 超音波療法</p> <p>III. 電気刺激療法 1) 電気生理学 2) 低周波療法 3) 干渉波療法 4) S S P 療法</p> <p>IV. レーザー療法</p> <p>V. 他の物理療法機器</p> <p>VI. 症例検討・実習</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編集：細田多穂『理学療法ハンドブック 改訂第 4 版 第 2 巻 治療アプローチ』		
備 考	動きやすい服装を準備すること。		

授業科目	理学療法技術論 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	國井 佳代子		
授業目標 及び 到達目標	これから理学療法治療を学ぶに当たり、理学療法士として知っておくべき基本的な知識と技術を理解する。		
授 業 内 容	1. 解剖学知識の整理 2. 触診 palpation 3. 筋伸張法 muscle stretching		
評価方法	筆記試験 (50 点)・実技試験 (50 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	编者：野村巖『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』 監修：青木隆明『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・下肢・体幹』 改訂第 2 版 著者：竹井仁『触診機能解剖アトラス上・下』		

授業科目	理学療法技術論Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期 全 8 回		
担当講師	齊藤 翔		
授業目標 及び 到達目標	<p>主要な関節について解剖学・運動学の知識を整理し、運動器治療の基礎を理解する。</p>		
授 業 内 容	<p>1. 整形外科・運動器について 整形外科、運動器についての概要を講義する。 講義でロコモティブシンドロームについての話をする中で、立ち上がりテストや2ステップテストを実技として行う。</p> <p>2. 各関節についてグループ学習・発表及び講義・実技 臨床で遭遇する病態等を提示し、解剖学・運動学で学んだ知識を用いて治療展開について考察する。</p> <p>1) 頰椎 2) 腰椎 3) 肩関節 4) 肘関節 5) 手関節 6) 股関節 7) 膝関節 8) 足関節</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	解剖学、運動学など参考図書を準備してください。		

授業科目	理学療法技術論Ⅲ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	山岡 郁子		
授業目標 及び 到達目標	中枢神経疾患患者の回復過程を知り、各過程に適切な理学療法を知る。 また、再発予防に対して理学療法士ができることについても考える。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経疾患の発生機序と理学療法評価と治療の流れ</li> <li>2. 評価と治療の考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急性期 (初期弛緩期)</li> <li>2) 亜急性期 (痙性期)</li> <li>3) 回復期 (慢性期)</li> </ol> </li> <li>3. 治療場面の組み立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療場面での選択肢位</li> <li>・治療課題設定</li> <li>・治療・操作のポイント</li> </ul> </li> <li>4. 上肢機能に対する治療</li> <li>5. 歩行</li> <li>6. 随伴症状 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 口腔・顔面機能障害</li> <li>2) 高次脳機能障害</li> </ol> </li> <li>7. 日常生活動作</li> <li>8. 実習ケースの治療計画・模擬評価治療</li> <li>9. 実習</li> <li>10. 報告書提出</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編者：園部 俊春 他『理学療法実践ナビ 脳血管疾患編』		
備 考			

授業科目	日常生活動作 I	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	内山田 悟朗		
授業目標 及び 到達目標	<p>日常で行われる身の回り動作の評価・指導を学び、日常生活動作が困難となった対象者への各動作再獲得に必要な知識を理解する。</p> <p>また、日常生活動作を支援する機器、住環境の活用法を調べるとともに日常生活動作の練習・指導の仕方を実践し、理解度を高める。</p>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 日常生活基本動作</li> <li>3. 起居動作の介助</li> <li>4. 移動補助具</li> <li>5. 自助具</li> <li>6. Barthel Index</li> <li>7. FIM</li> <li>8. ケーススタディー</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	<p>編者：細田多穂『日常生活活動学テキスト』</p> <p>編者：黒川幸雄・他『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p>		

授業科目	日常生活動作Ⅱ	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	中邑 まりこ		
授業目標 及び 到達目標	臨床場面に応じた日常生活動作の評価、治療の実際を講義・実習を通して学ぶ。各疾患に合わせた ADL 訓練を模倣できるようにする。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害の ADL ① <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特徴</li> <li>・ 注意点</li> </ul> </li> <li>2. 脳血管障害の ADL ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事動作</li> <li>・ トイレ動作</li> <li>・ 更衣動作、移動動作 (実技)</li> <li>・ 整容動作</li> <li>・ 排泄動作</li> <li>・ 入浴動作</li> </ul> </li> <li>3. 日常生活動作と建築空間・設備</li> <li>4. 自助具 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事動作</li> <li>・ 排泄動作</li> <li>・ 入浴動作</li> <li>・ 整容動作</li> <li>・ 更衣動作</li> </ul> </li> <li>5. 慢性関節リウマチの ADL</li> <li>6. 頸髄損傷の ADL</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	参考：伊藤利之・他『新版 日常生活活動 (ADL) 』		

授業科目	義肢学	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	岡安 健		
授業目標 及び 到達目標	切断者の理学療法と義肢について理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 義肢学総論・切断の原因と切断術</li> <li>2. 切断者の心理・理学療法評価</li> <li>3. 断端管理・義肢装着時期</li> <li>4. 切断部位と義肢</li> <li>5. 大腿切断と大腿義足</li> <li>6. 大腿切断者に対する理学療法</li> <li>7. 大腿義足のアライメント</li> <li>8. 義手について</li> <li>9. 股義足について</li> <li>10. サイム義足、膝義足について</li> <li>11. 足部切断について</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	監修：高田治実『PT/OT ビジュアルテキスト 義肢装具学』		
参考書	編者：細田多穂『下肢切断の理学療法』		
備 考			

授業科目	装具学	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	2 年次 通年		
担当講師	内山田 悟朗		
授業目標 及び 到達目標	治療手段である装具療法を解剖学、運動学などに関連させ、装具療法の適応患者の形態・機能障害に合わせた処方、チェックアウトについて理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 整形靴</li> <li>3. 下肢装具</li> <li>4. 体幹装具</li> <li>5. 側彎装具</li> <li>6. 上肢装具</li> <li>7. 小児疾患の装具</li> <li>8. 脊髄損傷の装具</li> <li>9. 装具の給付制度について</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)・小テスト		
テキスト	講師作成資料		
参考書	監修：細田多穂『義肢装具テキスト』 監修：高田治実『義肢・装具学』PT・OT ビジュアルテキスト		
備 考			

授業科目	臨床技術	単 位	1 単位 (45 時間)
開講時期	3 年次 通年		
担当講師	阿部 雅弘		
授業目標 及び 到達目標	<p>実際の臨床場面の中で、学んできた知識がどう、実践されているのかを、実習を通して確認する。 また、臨床実習に向けての課題を発見し、解決の糸口を得る。</p>		
授 業 内 容	<p>評価実習場면을想定した実習を、総合医療センター成田病院にて実施する。指導者の理学療法士とコミュニケーションを取りながら、臨床現場での実際のオリエンテーションや、リスク管理の考え方、疾患に対する考え方を、担当理学療法士の実践に参加する事で学ぶ。</p> <p>診療参加型実習となり、診療場面に実際に参加することによって、臨床現場で役に立つ技術とは何かを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 病院での診療参加型実習 1 回目</li> <li>3. レポート作成</li> <li>4. 実習指導者との振り返り</li> <li>5. 病院での診療参加型実習 2 回目</li> <li>6. レポートの作成</li> <li>7. 2 回を通しての実習での課題を指導者と振り返り確認する</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
授業方法	実技		
評価方法	出席状況・施設指導者による学生総合評価を受け、学内での取り組みと合わせ判定する。		
備 考	白衣・名札着用です。身だしなみに気をつけること。		

授業科目	生活環境論	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	國井 佳代子		
授業目標 及び 到達目標	<p>生活環境設備に関する基礎を学ぶ.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の特徴、生活様式を通して、高齢者・障害者にとって不自由な点を整理し、関連施設、背景とあわせて生活環境整備の意義を学ぶ。</li> <li>・高齢者や障害者に多くみられる疾患と症状、障害の特徴を理解し、在宅介護と住環境整備の基本を身につける。</li> <li>・住環境整備の共通基本技術を学び、整備方法を学ぶ。また、関連法規、施工、設備等の住宅関連に関する基礎知識を身につける。</li> </ul>		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境論総論</li> <li>2. 生活環境整備の留意点</li> <li>3. 関節可動域と日常生活動作</li> <li>4. バリアフリーの関連諸制度</li> <li>5. 住環境について考え方と諸制度</li> <li>6. 障害別住宅改修例</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	<p>参考</p> <p>監修：千住秀明『理学療法学テキストX 生活環境論』  編者：鶴見隆正『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』  編者：野村みどり『バリアフリーの生活環境論 第2版』</p>		

授業科目	地域リハビリテーション	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	佐々木 和人 内山田 悟朗		
授業目標 及び 到達目標	地域で行われるリハビリテーションに対し、実際はどうであるかの現状を知り、その方法、取りまく社会環境、行政との関わりについて理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会資源、社会制度・地域包括ケアシステム</li> <li>2. 新ゴールドプランの概要</li> <li>3. 高齢者を取りまく状況の変化</li> <li>4. 地域包括ケアシステムについて</li> <li>5. 行政での理学療法士の役割</li> <li>6. 訪問リハビリテーション</li> <li>7. 保健・医療・福祉制度の変革と介護保険</li> <li>8. 通所リハビリテーション</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	リハビリテーション機器	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	國井 佳代子		
授業目標 及び 到達目標	リハビリテーション機器の基本的な知識及び処方技術を理解する。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション機器総論</li> <li>2. リハビリテーション機器各論</li> <li>3. 自助具作成</li> <li>4. 国際福祉機器展見学</li> </ol>		
評価方法	レポート (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	臨床実習 I	単 位	2 単位 (80 時間)
開講時期	2 年次 後期		
担当講師	各臨床実習指導者		
実習目標 及び	臨床実習 I は、専門基礎科目、専門科目履修を前に、学習活動の認識を高めるとともに、指導者の患者への対応する様子などを見学させてもらうことで、「理学療法」「理学療法士」とは何かを理解できるよう実習する。		
実 習 内 容	<p>(初期) 学内で、2 年としての基礎知識と、技術、態度を確認する。</p> <p>(中期) 各実習施設の指導者から学生に合わせ指導して頂く。</p> <p>1. 方法：見学あるいは助手的立場で評価・理学療法の一部を経験する。</p> <p>2. 目標：①理学療法業務全般の見聞と把握により、理学療法士の役割分担について認識する。 ②患者の持つ障害像・疾患に関する具体的なイメージを持つ。 ③理学療法士になるために何が欠けているのか、あるいは、今後何を学ぶべきかについて問題意識を持つ。</p> <p>基本的には施設の実情に応じて指示されたことを行うこと。 仕事内容が分からない場合などや、終了したときなどは、速やかに指導者に報告をすること。 特に患者様あるいは治療に関わることでは、自ら判断することなく、必ず実習責任者に相談する。</p> <p>(後期) 学内で、自身が体験した理学療法について発表しあい、理解を深める。 また、実習施設によって患者、疾患が違い、理学療法士の働き方なども、違う点について知る。 その後、実習前とどのように進歩できたか、知識・技術・態度について確認する。</p>		
評価方法	出席状況・施設指導者による学生評価を受け、実習後に行う学内での客観的臨床能力試験の確認内容と併せて総合判定する。		
備 考			

授業科目	臨床実習Ⅱ	単 位	5単位 (200時間)
開講時期	3年次 後期		
担当講師	各臨床実習指導者		
実習目標 及び 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設における理学療法、及び理学療法士の役割・機能を学ぶ。</li> <li>2. 対象者を把握するために必要な情報収集能力を身につける。</li> <li>3. 収集した情報に基づいて理学療法評価を行い、問題点を揭示し、目標 (長期及び短期) を設定し、さらに理学療法計画を立案する。</li> <li>4. 理学療法士として必要な事項を記録し、報告する能力を身につける。</li> <li>5. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての向上・充実を図るために努力する態度を養成する。</li> </ol>		
実 習 内 容	<p>(初期) 学内で、3年としての評価知識と、評価技術、態度を確認する。</p> <p>(中期) 各実習施設の指導者から学生に合わせ指導して頂く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 方法: 助手的立場で指導者が行う評価・理学療法の一部を経験させてもらい、評価結果から患者の障害像や問題点が考察できる様に、臨床的推論を、 指導者と共に確認する。 できるならば、理学療法立案してみる。</li> <li>2. 目標: ①体験した評価を通し、患者の障害像・疾患に対する理学療法の具体的なイメージを持つ。 ②理学療法評価を行うために何を学べばできるようになるのか、あるいは、今後何を学ぶべきかについて問題意識を持つ。 ③患者様の評価・理学療法の実践を体験させてもらった内容を振り返り、治療を組み立てることに役立てられる。</li> </ol> <p>基本的には施設の実情に応じて指示されたことを行うこと。 仕事分からない場合や終了したときは速やかに報告をすること。 特に患者様或いは治療に関わることは、自ら判断することなく、必ず実習責任者に相談する。</p> <p>(後期) 学内で、自身が体験した理学療法評価について発表しあい、理解を深める。 また、施設によって患者、疾患が違い、理学療法についての考え方なども、違う点について知る。 その後、実習前とどのように進歩できたか、知識・技術・態度について確認する。</p>		
評価方法	出席状況・施設指導者による学生評価を受け、実習後に行う学内での客観的臨床能力試験の確認内容と併せて総合判定する。		

授業科目	臨床実習Ⅲ	単 位	14単位 (560時間)
開講時期	4年次 通年		
担当講師	各臨床実習指導者		
実習目標 及び 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内で習得した理論と技術等の知識に加えて、臨床場面で実習指導者の理学療法実践に参加体験し、理学療法の基本原理・技術を認識する。</li> <li>2. 患者を全体的に評価し、把握するために必要な情報収集能力を身につける。</li> <li>3. 収集した情報に基づいて問題点を把握し目標（長期及び短期）を設定し理学療法計画を立案し、適切な理学療法の実施を実習指導者と共に行う。</li> <li>4. 理学療法実施の効果判定を実習指導者と共に行う。</li> <li>5. 理学療法としての必要な事項を記録し、報告する能力を身につける。</li> <li>6. 3学年次の実習目的の更に発展させたアプローチを工夫する。</li> <li>7. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職・医療人として努力する態度を学ぶ。</li> </ol>		
実 習 内 容	<p>(初期) 学内で、理学療法技術、態度を確認する。</p> <p>(中期) Ⅰ期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾患各患者様に応じた評価・理学療法立案を行い、指導者の行う理学療法に参加体験する。</li> <li>2. 効果があがらない場合、再評価、再度のプログラム立案、再度の理学療法実践を行い、原因分析する過程を学ぶ。</li> </ol> <p>(中期) Ⅱ期</p> <p>上記臨床実習Ⅲ-1 同様理学療法について実施と検証を重ねていくが、Ⅱでは、理学療法の実施に関して、指導者から助言があれば実施できる事を目標に学ぶ。</p> <p>基本的に、施設の実情に応じて指示されたことを行うこと。 仕事分からない場合や、終了した場合は、速やかに実習責任者に報告をすること。 特に、患者様、或いは、理学療法に関わることでは、自ら判断することなく、必ず、実習責任者に相談し、判断を仰ぐ事。</p> <p>(後期)</p> <p>学内で、自身が体験した理学療法について発表しあい、理解を深める。 また、施設によって患者、疾患が違い、理学療法についての考え方なども、違う点について知る。 その後、実習前とどのように進歩できたか、知識・技術・態度について確認する。</p>		
評価方法	出席状況・施設指導者による学生評価を受け、実習後に行う学内での客観的臨床能力試験の確認内容と併せて総合判定する。		

授業科目	地域実習	単 位	1 単位 (40 時間)
開講時期	4 年次 通年		
担当講師	各臨床実習指導者		
実習目標 及び 到達目標	<p>地域リハビリテーション施設における理学療法士の多様性ある役割を学び、保健福祉領域におけるその在り方について実践を通して理解する。</p> <p>生活のイメージの構築、施設等応用実践領域の得意性の理解日常生活について臨床経験を通して学ぶ機会を得る。</p>		
実 習 内 容	<p>(実習前)</p> <p>学内で、地域リハビリテーションについての知識と、生活期における理学療法介入技術、態度を確認する。</p> <p>(実習中)</p> <p>1. スタッフの一員として地域リハビリテーションの実際を理解する。</p> <p>① スタッフによる利用者様や患者様への対応を観察、介助する。</p> <p>② 総合的評価会議等の参加する機会を得て他の関連職種との連携を理解する。</p> <p>③ 他の関連職種とのチームアプローチについて認識する。</p> <p>④ 保健福祉業務に携わる機会を得て、積極的に参加する。</p> <p>2. 利用者様・患者様の持つ諸問題を包括的に理解する。</p> <p>① リハビリテーション業務の実際や評価会議、ケースカンファレンス等の見学により問題点を把握する。</p> <p>② 居宅、居室、在宅訪問など利用者様や患者様の環境の問題点を把握する。</p> <p>③ 他の関連職種による評価や介入方法などを理解する。</p> <p>3. 各専門職との係わりについて理解する。</p> <p>① 総合的評価会議等への参加により各専門職の役割を系統的に理解する。</p> <p>② 地域に関わる専門職 (医師、看護師、介護福祉士、ケアマネジャー、ケースワーカー、社会福祉士等) の業務を知る。</p> <p>4. 施設等の役割や方針を知る。</p> <p>① 施設等の体系、組織、職場管理、地域コミュニティの役割や目的について理解を深める。</p> <p>5. 社会制度や法規について知る。</p> <p>(実習後)</p> <p>学内で、自身が体験した地域リハビリテーションについて発表しあい、理解を深める。</p> <p>その後、実習前とどのように進歩できたか、知識・技術・態度について確認する。</p>		
評価方法	出席状況・施設指導者による学生評価を受け、実習後に行う学内での客観的臨床能力試験の確認内容と併せて総合判定する。		



## IV. 選択必須科目

---

授業科目	PNF I (固有受容神経筋促通法 Proprioceptive - Neuromuscular Facilitation I)	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	3 年次 後期		
担当講師	柴宮 洸自		
授業目標 及び 到達目標	人の正しい反応を引き出し、導き出すための PNF コンセプトを 十分理解していく。		
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PNF の定義</li> <li>2. PNF Philosophy</li> <li>3. PNF 歴史</li> <li>4. Basic Principles (基本的原理)</li> <li>5. テクニック</li> </ol>		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	著者 : Susanne Hedin 『PNF 原著第 2 版 基本的手技と機能的訓練』		
備 考			

授業科目	PNF II (固有受容神経筋促通法 Proprioceptive - Neuromuscular Facilitation II)	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	4 年次 前期		
担当講師	柴宮 洸自		
授業目標 及び 到達目標	PNF I で学んだ基礎・概念をもとに、人の正しい反応を引き出し、 促通する事ができるようになる。		
授 業 内 容	1. 機能の評価 2. 治療 1) テクニックの選択 RHYTHMIC INITIATION COMBINATION OF ISOTONICS REPEATED STRETCH REPLICATION DYNAMIC REVERSAL STABILIZING REVERSAL RHYTHMIC STABILIZATION CONTRACT - RELAX HOLD - RELAX 2) パターンの選択 3) 肢位の選択 3. 再評価 4. ホームプログラム		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	特殊理学療法	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	4 年次 前期		
担当講師	横尾 浩 杉浦 史郎 草木 雄二 佐藤 恭平 飯山 大介		
授業目標 及び 到達目標	<p>スポーツ障害に対しての基礎的な考え方を学び、実際の技術も知る。 臨床での考え方を学び、その技術を知る。</p>		
授 業 内 容	<p>(1) 下肢荷重連鎖・足底挿板療法を学ぶ。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能解剖</li> <li>・運動学</li> <li>・疾患</li> <li>・動的評価</li> </ul> </p> <p>(2) 整形外科疾患の評価と治療を学ぶ</p> <p>(3) 脳血管疾患の評価と治療を学ぶ</p> <p>(4) 理学療法士としての職域の実際を学ぶ</p>		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考	半袖・短パンの準備		

授業科目	文献抄読	単 位	1 単位 (30 時間)
開講時期	2 年次 前期		
担当講師	山岡 郁子		
授業目標 及び	1. 理学療法士としての技術学習に際して必要な文献を自分で検索し取得する。 2. 臨床に役立つ研究を行う際の文献研究を読むことができる。 3. 自らが研究する際に必要な事項を学ぶ。		
授 業 内 容	1. 文献研究の目的・意味 1) 研究の意義と文献検索 2. 文献検索の実際 1) 当学院図書館での文献検索 2) 興味あるテーマに関する文献リストの作成 3) 文献の種類 3. ネット上からの文献検索の実際：日本語文献 1) 国立国会図書館 OPAC の利用方法 2) 国立情報学研究所 NII 学術 コンテンツ・ポータル Ci-Nii の利用方法 3) 各大学図書館電子図書館サービスの利用方法 4) 各民間電子図書館サービスの利用方法 ①医中誌 WEB ②J-STAGE 等 4. ネット上からの文献検索の実際：英語文献 1) 各自が入手した英語文献の確認 2) PubMed の利用方法 3) 英語文献を和訳し、要約する 4) 要約を発表してみよう 5) 当学院に無い論文を実際の図書館で検索し、入手してみる 5. 各自の研究テーマにそって、デモンストレーションツールを使用し、 模擬学会発表 6. 文献を読むにあたって注意すべき事項 1) 結果の信頼性 2) インパクトファクターについて 3) 研究テーマや研究手法に関する倫理 7. 研究に使用する統計方法 8. 研究デザイン		
評価方法	筆記試験 (70 点)・課題 (30 点) (合計 100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	編著：対馬栄輝『最新理学療法学講座 理学療法研究法』		

授業科目	総合理学療法 I	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	4 年次 通年		
担当講師	藤井 顕 山岡 郁子 内山田 悟朗 國井 佳代子 中邑 まりこ 齊藤 翔 齋藤 亮太		
授業目標 及び 到達目標	国家試験問題を例題として理学療法士として学んできた知識・技術の再確認と、統合を行う。		
授 業 内 容	1. 理学療法士国家試験について <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国家試験の意義</li> <li>2) 知識・技術の再確認をしていく方法</li> <li>3) グループ学習の目的と班分け</li> <li>4) 資料作成について</li> </ol>		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

授業科目	総合理学療法Ⅱ	単 位	2 単位 (60 時間)
開講時期	4 年次 通年		
担当講師	藤井 颯 山岡 郁子 内山田 悟朗 國井 佳代子 中邑 まりこ 齊藤 翔 斎藤 亮太		
授業目標 及び	国家試験の合格レベルは、理学療法士の専門性を担保できるレベルといわれるが、模擬試験や、グループ学習を通して、専門性に関して自分なりに考え、他者に説明できるようになる。		
授 業 内 容	1. 学内試験受験方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 頻度</li> <li>2) 試験の意義</li> <li>3) 試験の受け方</li> <li>4) 解答の仕方</li> <li>5) クラスの傾向と理解力の分析</li> </ul> 2. 理学療法士に必要な知識とは何か？ 3. 理学療法士の専門性とは何か？		
評価方法	筆記試験 (100 点満点中 60 点以上合格)		
テキスト	講師作成資料		
備 考			

